# あなたと

松本市立博物館ニュース No.193 2014.7.1

**天神様400**華

深志神社の歴史と城下町の人々の関わりについて紹介する特別展を開催します 松本市立博物館長 窪田雅之

今年は天神様が城下町に遷って四〇〇年の節目の年





松本城下町南深志の鎮守の深志神社 天神祭りは城下町松本で最もにぎやかな祭りとして町の人たちによって支えられています 深志神社といえば天神様

もくじ 誌 上 博 物 館 ◇ 松本城下町の繁栄・祈り・信仰─天神様400年─ ……2-3

博物館TOPICS ◇ 第4回平和首長会議国内加盟都市会議開催記念 戦争と平和展

「近代都市松本―軍隊と戦争、その遺産」 ……4 「戦争に翻弄された学校登山」 ……5

「刑務官が見た巣鴨プリズン」

ガイドコーナーはんてんぼく …………

(紹介は次ページ)

### 松本城下町の繁栄・祈り・信仰―天神様 400 年―

### はじめに

松本城下町の繁栄を見つめ続けてきた深志神社 は今年、小笠原秀政が天満宮を現在地に遷してか らちょうど 400 年目にあたります。当館ではこの 節目の年を記念して、深志神社が所蔵する松本市 重要文化財指定の神輿、松本藩主が寄進した宝物 などの貴重な文化財を展示し、松本城と城下町の 繁栄や、人々の信仰を集めた深志神社の姿を紹介 する特別展を開催しています。

### 深志神社について

深志神社は、松本駅前大通りの南側に位置し、 松本市街地の中央を東西に流れる女鳥羽川の南 側、南深志の地を中心とする48ヶ町、約5.000戸 の氏子に支えられている神社です。

深志神社では毎年、正月の「市神祭 (あめ市)」、 7月の「八坂様」、例大祭の「天神祭り」などの 祭りが行われており、氏子や町の人たちでにぎわ います。

そして、神社で大切に保存されている数々の文化 財は、本城下町に暮らす人たちにとって身近な祈り の対象としての歴史を感じさせるものです。



天神祭り当日の拝殿

### 神社のはじまり

深志神社の前身は、 小笠原氏が祀った宮村 宮と天満宮のふたつの 神社です。宮村宮は、 小笠原貞宗が井川の居 館を鎮護するため、暦 応2年(1339)年9月 に、居館の東北の宮村 の地に諏訪明神を祀り ました。貞宗は諏訪明 神のお告げを受けてこ



鎌田菅公廟趾碑

の地を選んだとされています。天満宮は、応永9 年(1402)に信濃国守護の小笠原長基が、崇敬し ていた北野天満宮を井川の居館の西方、鎌田の地 に勧請したのがはじまりとされています。

### 天神の遷座

天満宮は、親しみをこめて天神様と呼ばれま す。天満宮は天暦元年(947)、京都・北野の地に 菅原道真が神として祀られたのが始まりで、その 後、学問の神として全国各地に勧請されるように なり、各地で人々の信仰を集めました。松本の天 神様も例外ではありません。

この天満宮 を、松本藩主 の小笠原秀政 が松本城の鎮 護と城下町の 繁栄を祈っ て慶長19年 (1614)、建御 名方富命を 祀る宮村宮



の隣に、鎌田村にあった菅原道真を祀る天満宮を 遷して宮村両社となりました。以後、宮村両社(宮 村宮、天満宮) は、松本城下町を守る鎮守の社と して、松本藩主をはじめ城下町に住む人々の信仰 を集めてきました。

宮村両社は、天保12年(1841)神祇管領長上 吉田家に願い出て社名を深志神社に改めました。

### 人々の崇敬~深志神社の宝物~

深志神社の天満宮は、鎌田村から現在の地に遷 されて以降、城下に暮らす士族・町人などから様々 なものが奉納されてきました。なかでも、天満宮本 殿に安置されている神社の成立に関わった小笠原氏

奉納の菅原道真公像とそ れを納める厨子や宮形を はじめとして、歴代松本 藩主から奉納された数々 の宝物は、神社の歴史を 物語る資料となっており、 その一部は、「深志神社 の宝物 | として松本市重 要文化財に指定されてい ます。



### 深志神社の絵馬

深志神社に奉納され現存する絵馬は、総数約80面を数え、松本地方の社寺のなかで最も多いと思われます。

奉納の年代が明らかな 42 面のなかで、最も古いものは寛保元年(1741)奉納のものです。絵柄の種別にみると、武者絵 23 面、人物図 8 面、故事・伝説図 4 面、馬図 1 面、句額 1 面となり、馬図が思いのほか少なく、武者絵が圧倒的に多いのが特徴です。また、深志神社には藩主の奉納とされる絵馬が 1 面だけ存在しています。

総じてこの地に生きた先人の暮らしの実情や、 心意の一端を、今を生きる私達に伝えてくれるも のばかりで、派手さはあまりありませんが、かけ がえのない市民の文化財として位置付けることが できます。

右上の絵 馬は、深志 神社所蔵の うち、年代が わかってい る最古のも のです。題材 となった川 中島の戦い は、甲斐の武 田信玄と越 後の上杉謙 信が争い、 戦国時代で 最も激戦で あったことが 知られています。



絵馬「川中嶋の戦」(部分)



絵馬「鉞を奪い合う武士」(部分)

### 祭礼のにぎわい

宮村宮と天満宮の両社が祀られて宮村両社とよばれるようになって400年、松本の鎮守である深



神輿の巡幸

志神社では神職や氏子に城下町の人々が加わって、毎年盛大に 祭りが行われてきました。

市中に曳き出 される深志神社 の舞台は、元和 2年(1616)に、また、巡幸する神輿は、元禄11年(1698)につくられたものです。宮村両社の祭日は、寛永11年(1634)に旧暦6月25日となりました。また、城下町の風物詩である正月の「あめ市」は、境内に祀られた市神の祭礼で、慶長20年(1615)にさかのぼる行事です。これらの祭りは文政8年(1825)の戸田家治城百年祭を機に、より盛大になったとされています。祭りのにぎわいは、藩主の崇敬はもちろん、町衆の支えがあってこそのものでした。

なかでも「天神祭り」は、「城下町の町人として の心意気と誇り」を示す祭りといわれています。



深志神社境内に曳きこまれた舞台

### おわりに

天満宮が現在の地に鎮座して400年にあたる今年は、「深志神社天満宮御鎮座400年祭」として7月25日(金)から27日(日)の3日間とり行われます。この特別展を通して今も残る松本城下町に暮らした人々の姿の一端を感じていただければ幸いです。

(松本市立博物館 学芸員/小原 稔)

### 松本城下町の繁栄・祈り・信仰―天神様400年―

[会期] 6月14日●~7月21日圓・總

[会 場] 松本市立博物館 2階特別展示室

### 記念講演会

[日 時] 7月5日● 午後1時30分~午後4時

[会場] 松本市立博物館 2階講堂

[定 員] 60名

[参加料] 無料 (別途入館料が必要です)

[内 容] ①「神社と神道の歴史」 午後 1 時 30 分~ 講師: 岡田荘司氏(國學院大學教授)

> ②「天神様の歴史・信仰・文化」午後3時~ 講師:加藤迪夫氏(北野天満宮権宮司)

[問合せ] 松本市立博物館 ☎ 0263-32-0133

## 第4回平和首長会議国内加盟都市会議開催記念 戦争と平和展 近代都市松本—軍隊と戦争、その遺産

### はじめに

明治41年(1908)から、松本には、旧陸軍歩兵第五十連隊(以下、五十連隊)が衛戍(軍隊が長期間滞在すること)していました。以後、この連隊は、シベリア出兵、日中戦争を経験し、太平洋戦争開戦後は、南洋諸島へ向かいました。

### 五十連隊の遺産から見つめる松本

一昨年、五十連隊跡地(現信州大学松本キャンパス)に残る「糧秣庫」が登録有形文化財となりました。この赤レンガの建物は、連隊が松本に転営した直後に建造されたと推察されています。そうだとすれば、この建物は築100年を経過し、近代日本の建築様式を今に伝える貴重な文化財であると言えるでしょう。

五十連隊に関連する資料はこれにとどまりません。松本市立博物館は、五十連隊の正門を写した絵葉書をはじめ関連資料を所蔵しています。また、市域には、「射撃場橋」といった五十連隊にまつわる地名も残っています。

こうした資料群からは、五十連隊と松本の関わりの深さが推察できます。絵葉書のなかには五十連隊を「松本名所」と表現しているものがあります。また、先行研究では連隊の需要が松本を潤したことが指摘されています。さらに、全国各地で師団・連隊誘致活



絵葉書「(松本名所)歩兵五十聯隊正『

動の研究が進められて おり、道路や鉄道などイ ンフラ整備にもたらした 影響などが考察されて います。

観光を含む経済的な

発展、そしてインフラ整備に見られる都市基盤の構築などの面から、近代松本の発展にとって連隊は大きな要因となったと言えるのではないでしょうか。

### 松本に来た大企業

さて、五十連隊と並んで見逃してはならないのが、 昭和10年代に盛んになる工場誘致の成果です。

資料によると、昭和5年 (1930) の時点で、県下総 耕地面積に占める桑園の割合は約5割でした。昭和 4年から5年にかけて、世界恐慌のあおりを受け生糸 の対米輸出量が激減し、価格は約3分の1にまで暴落 します。「農村恐慌」とも呼ばれた県下農村の窮乏は 長引き、昭和6年ごろから政府によって生糸の減産な ど合理化が図られ、養蚕から野菜、果樹、蓄産業な どへの転換が図られます。

しかし、養蚕業からの転換は容易でなく、その対

応策のひとつとして、昭和12年頃から長野県は重工業化に乗り出しました。

すでに、昭和8年から大規模資本の生産部門が県下に工場を設けていたものの、戦中期になっても、重工業化は進みませんでした。しかし、昭和17年に日本本土への空襲が始まると、陸軍航空本部の主唱により、防空上の理由から中信地方に航空機、兵器などを生産する軍需工場を主体とした工業地帯を築くことが計画されました。

このことによって、市域に大規模な工場が誘致され、都市開発が進展し、また、産業が飛躍的に発展したことは見逃せない事実でしょう。



大規模な工場が誘致された南松本

### おわりに

明治維新以後、100年に満たない近代の歴史のなかで、人々はいくつかの戦争を体験し、そして多くの 犠牲を生みました。

しかし、連隊、軍需工場の誘致により、近代都市 あるいは地域社会は発展し、その利益を享受したと いう側面があります。

小説家の司馬遼太郎は、満州事変から敗戦にいたるまでの時代を「魔法の森」と表現しています。近代の歴史をひも解くと、この言葉は、犠牲と発展が併存した近代という時代を体現しうる言葉なのではないかと思うことが多々あります。

この時代の、言いかえれば「魔法」の謎に私たちはどこまで迫ることができているのでしょうか。本展が、ご来館いただくみなさまに近代という時代の相克を感じていただくとともに、そうした歴史を知り、私たちと一緒に平和への営みを模索していただけるような機会となれば幸いです。

(松本市立博物館 学芸員/草間厚伸)

第4回戦争と平和展「近代都市松本―軍隊と戦争、その遺産」

8月2日●~9月15日**月**・徼

### 重文旧開智学校 Tel.0263-32-5725

### 戦争に翻弄された学校登山

「頭の上へぬっと突出ている物すごき大岩、恐しい程深い下の方にしんしんと松や杉が茂っている間や底が見える程美しく清く流れている川、(中略)、此の登山こそ我等勇士の日本アルプス登山。今日は常念岳目がけて進むのだ。」

これは、昭和10年 (1935) の開智小学校児童文集 『小さい花』に収められた、6年女子の作文の一節 です。

現在、岳都を標榜する松本では、近代初頭から学校教育の中で山に登ることが盛んに行われてきました。開智学校における登山は、明治20年代から散見されるようになります。当初は運動会という名前で、主に高学年が鉢伏山や美ヶ原に登るといったものでした。大正時代になると、夏季修養という名目で、夏休み期間に希望者を募って、乗鞍や燕岳に登っています。現在では、登山は主に中学生の行事となりましたが、開智小学校では5年生による美ヶ原キャンプが毎年行われています。

こうした登山は、太平洋戦争下ではどのように行われていたのでしょうか。開智学校では、それまでの夏季修養での登山から「鍛錬遠足」と名称を変え、美ヶ原や燕岳に登っています。松本駅から有明駅ま

で電車で移動し、 駅から徒歩で燕岳 に登って帰校すると いう日程を、わずか 3日でこなすという



強行軍は、まさに鍛 昭和10年代 燕岳登山

錬遠足といったところでしょう。昭和12年の燕岳登山の時は、有明神社まで自動車移動でしたが、戦時下には経費節減のため電車と徒歩移動となったようです。また、昭和12年には計上されていた花火代が、戦時中はなくなっています。子どもたちの楽しみも、時局下では控えるべきと判断されたとみえます。

今回の戦争と平和展では、こうした戦時下の登山 (遠足)や修学旅行の様子を紹介します。楽しい思 い出として残る学校行事にまで戦争は大きな影響を 与えていました。学校のあらゆる場面に影を落として いた戦争の様子を振り返ることで、平和の尊さを考え る機会となれば幸いです。

(旧開智学校 学芸員/遠藤正教)

### 戦時下の学校一鍛錬となった遠足・修学旅行―

8月2日●~9月15日**月**・級

### 松本市歴史の里 Tel.0263-47-4515

### 刑務官が見た巣鴨プリズン

松本市歴史の里では、松本まるごと博物館連携 事業として「刑務官が見た巣鴨プリズン」を開催 します。

巣鴨プリズンとは、昭和20年 (1945) 11月に、東京拘置所を接収して設置された戦犯者 (戦争犯罪人)を収容する施設です。場所は、現在の東京都豊島区東池袋のサンシャインシティ周辺で、東池袋中央公園には「平和の碑」が建てられています。

巣鴨プリズンは、昭和33年に廃止されますが、その間アメリカ軍を中心とした連合国軍の管理時代と、日本による管理時代の2期に分けることができます。連合国軍の管理時代は、東京裁判などの戦争裁判がされた期間であったため、戦犯者の死刑が執行されるなど厳しい管理体制でした。正式に日本に管理が移管されるのは昭和27年のサンフランシスコ講和条約発効後ですが、昭和25年に朝鮮戦争が勃発すると、日本国内のアメリカ軍が不足したこともあり、巣鴨プリズンの警備部門など一部の管理が移管され始めました。これに

より、巣鴨プリズンに全国の刑務所から選抜された日本人の刑務官が入ることになりました。



戦犯者と刑務官の出所記念写真

は、織田氏の資料を中心に昭和25年以降の日本 管理時代の巣鴨プリズンの様子を紹介します。刑 務官が使用した物だけでなく、戦犯者が出所時に 刑務官に送った記念品もあわせて展示し、刑務官 と戦犯者の交流の一場面など、刑務官が見た巣鴨 プリズンの様子を紹介します。

(松本市歴史の里 学芸員/宮井博樹)

### 刑務官が見た巣鴨プリズン

8月2日●~9月15日**月**・徳

### 松本まるごと博物館連携事業 まつもとの七夕 2014

松本では、月遅れの8月7日に七夕人形を飾り、ナスやキュウリなどの季節の野菜をお供えして、きなこや小豆あんであえたほうとうを食べる習わしがあります。博物館では、市民や松本を訪れる観光客のみなさまにこの伝統行事を伝えることを目的に、博物館で七夕展を開催するとともに、松本駅から松本市立博物館の中心市街地の店頭で七夕人形を飾る「まちなか展示」の活動をしてきました。「まつもとの七夕 2005」として始まった「まちなか展示」は、今年度で10年目を迎えます。

博物館では今年もまちなか展示を行うほか、博物館連携事業として4館で七夕人形の展示を行います。

### まちなか展示

7月19日4~8月17日€

月遅れの七夕に合わせて、松本駅から博物館までを中心とする商店街の店頭に紙の七夕人形を飾っていただきます。また、大名町通りを笹飾りで彩ります。[場所]

中心市街地の各所





まちなか展示

### 七夕巡回バス「カータリ号」

8月10日母午前9時30分~午後3時

[場 所] 市立博物館 はかり資料館 馬場家住宅



委寧の中路

塩尻市本洗馬歴史の里資料館・釜井庵

[定 員] 15 人 [料 金] 500 円

[申込み] 7月28日 分から電話で市立博物館へ

### 松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

### ほうとうサービス

8月7日最午前10時~

今年もボランティアグループ エムの会の協力に より、来館者に無料でほうとうをふるまいます。 ※ほうとうがなくなり次第終了

### 市民学芸員による七夕人形づくり講座

8月5日 20・6日 38

簡単に作れる七夕人形を製作します。

[場 所] 市立博物館 1 階常設展示室

[料 金] 通常観覧料(大人 200 円)

[申込み] 不要

### 重文馬場家住宅 Tel.0263-85-5070

### 古民家で楽しむ七夕さま 7月5日●~8月17日**●**

本棟造りの古民家で、松 本伝統の七夕人形の展示 をお楽しみください。

今年は松本衣デザイン 専門学校生徒さん制作に よる現代の七夕人形も展 示します。



[料 金] 通常観覧料(大人300円)

### 七夕人形作り講座

7月13日 年後1時30分~午後3時30分

簡単に製作できるキットを使って七夕人形を手 作りしてみませんか。

[定 員] 10人

[参加料] 1,030円及び通常観覧料 [申込み] 電話で馬場家住宅まで

ほうとうサービス 8月7日 ☆午前10時~

### はかり資料館 Tel.0263-36-1191

### 七夕人形展

7月5日◆~8月17日●

中町の土蔵造りの建物の中で、伝統の七夕人形の 展示をお楽しみください。

### ほうとうサービス

8月7日最午前10時~

今年も博物館友の会のボラン ティア部会の協力により開催し ます。



ほうとうサービス

「星に願いを」

窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

7月19日●~8月17日

七夕飾りと合わせて空穂や昔の人が詠んだ七夕 にまつわる歌を紹介します。

「会 場] 窪田空穂記念館・生家

[料 金] 通常観覧料

(高校生以上300円)



### 企画展 松本高校の教育掛図

旧制松本高校で使用された教育掛図を、関連する 資料とともに展示します。ウィーンで製作された語 学教育用掛図・人体図・軍事教練図・手描きによる 生物図など、さまざまな掛図をご覧ください。

会 期 7月12日(土)~9月15日(月·祝)

会 場 旧制高等学校記念館 ギャラリー

料 金 無料

問合せ 旧制高等学校記念館へ(☎0263-35-6226)



### 企画展 涼しさを呼ぶ ガラス展

丸山太郎が蒐集したガラス器は、工場で大量生産したもの と違い、美しい色と透きとおった涼しさの中にも温かみがあり、 人の心を和らげてくれます。

会 期 7月15日(火)~10月26日(日)

会 場 松本民芸館

料 金 通常観覧料(大人300円)

問合せ 松本民芸館へ(☎0263-33-1569)



**倉動ガラス** 

### 夏期企画展 時計から見る世界の国々

世界各国で作られた時計を国ごとに展示し、その特徴やこだわりな どを、それぞれの国の背景や歴史と共に紹介します。

会 期 7月26日(土)~8月31日(日)

会 場 松本市時計博物館 3階企画展示室

料 金 通常観覧料(大人300円)

申込み 松本市時計博物館へ(☎0263-36-0969)



前ガンギ置時計/アメリカ製

### 平成 26 年度

名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター公開講座

### 有形遺産とまちの魅力

松本市街地を講師と共に歩きなが ら、まちの魅力を再発見します。

日 時 9月6日(土)午後1時~5時

会 場 上土ふれあいホール (松本市大 手4丁目8-15) に集合後、市街地 散策。

募集人員 16名(先着順)

参加費 無料 ※ただし、保険料(200円程 度) 負担あり

応募期間 8月9日(土)~20日(水)

応募方法 氏名·性别·年龄·連絡先電話番 号を記載のうえ、「2014公開講 座申し込み」と表題して、ファック スか電子メールで応募。 ファックス:052-789-3762

電子メール:khrm@nagoya-u.ac.jp

主 催 名古屋大学重要文化財馬場 家住宅研究センター

催 松本市教育委員会



### 考古博物館から

☎0263-86-4710

### 第 36 回あがたの森考古学ゼミナール 「信濃守護小笠原氏と井川城〜発掘調査 の成果から〜|

松本市特別史跡「井川城跡」について、昨年6月から行われている発掘調査の成果と、信濃守護小笠原氏の松本平支配における井川城の歴史的役割について考える講座です。

日 時 ①第1講 7月13日(日) ②第2講 7月27日(日)

いずれも午後1時30分~午後3時30分

会 場 あがたの森文化会館2-8教室

定 員 各講先着60名

参加料 各講200円

講師 ①「井川城跡の発掘調査」 熊谷博志(松本市文化財課埋蔵文化財担当) ②「信濃守護小笠原氏の松本平支配と井川城」 笹本正治氏(信州大学副学長 人文学部教授)

申込み 電話で考古博物館まで

### 夏休み体験学習講座「勾玉づくり講座」

毎年恒例、古代の不思議なアクセサリー「勾玉」 をつくる体験講座を開催します。

日 時 8月9日(土)、10日(日)

いずれも午後1時30分~午後3時30分

会 場 考古博物館2階 体験学習室

定 員 各回30名

対 象 小学生以上

※小学生低学年のお子さんは、保護者の付 添が必要です。

参加費 各回210円

持ち物 汚れてもよい服装、マスク

申込み 電話で考古博物館まで

### 窪田空穂記念館から☎0263-48-3440

### 将棋教室

日 時 ①7月19日(土)午前10時~午後4時 ②8月2日(土)午後1時~午後4時

会 場 窪田空穂生家

対 象 小中学生

(①午後は大人と段位のある小中学生)

参加料 無料

指導者 ①石川陽生七段ほかプロ棋士 ②地元指導者

申込み 当日までに電話等で窪田空穂記念館へ

### 子ども短歌教室

日 時 7月31日(木)午前10時10分~正午

会 場 窪田空穂生家

対 象 中学生以下の児童・生徒及び家族

参加料 無料

講 師 小柳素子氏

申込み 当日までに電話で窪田空穂記念館へ

### 囲碁教室

日 時 8月5日(火)~7日(木)午前10時~正午

会 場 窪田空穂生家

対 象 小中学生

参加料 無料

指導者 地元指導者

申込み 当日までに電話等で窪田空穂記念館へ

### 松本民芸館から

☎0263-33-1569

### 体験講座「子ども民芸教室」

布を裂いて織る『裂織』と子ども用の椅子を作る 『木工』の2コースです。

日 時 7月27日(日)午前10時~午後3時

会 場 松本民芸館

定 員 各コース10人

対 象 小学校高学年以上

参加料 500円(材料費) 入館料別途

講 師 山賀照子氏(裂織)、竹下賢一氏(木工) 持ち物 昼食

申込み電話で松本民芸館まで



### 重文馬場家住宅から☎0263-85-5070

### はた織り体験教室(裂布・ボロ織り)

日 時 7月26日(土)小袋をつくろう 8月23日(土)ソーイングセットをつくろう ①午前10時~正午

②午後1時~午後3時 (午前、午後とも同一内容)

会 場 馬場家住宅

定 員 12人

参加料 1,000円

講 師 染織の会会員

申込み 電話で馬場家住宅まで

### お茶席の会

本棟造りの古民家でゆったりとしたひとときを過ごしませんか。

日 時 7月20日(日)午前10時~正午 担当 おしゃれ茶道の会(裏千家) 8月24日(日)午前10時~正午 担当 松風の会(表千家)

会 場 馬場家住宅

参加料 通常観覧料のみ

### 子連れコンサート

日 時 8月23日(土)午前10時~11時

会 場 重要文化財馬場家住宅

料 金 無料

出 演 安田達朗氏(サックス)ほか

問合せ 寿公民館(TEL58-2038)

### 企画展「遺産の魅力」

名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センターと 松本市教育委員会との間で行われている、文化・学 術活動及び地域貢献に係る連携に基づく活動研究 の成果をパネルで紹介します。

会 期 8月30日(土)~9月23日(火·祝)

会 場 重要文化財馬場家住宅主屋

観覧料 通常観覧料(大人300円)

### 松本市歴史の里から 20263-47-4515

### 藍のたたみ絞り体験

親子で藍染めをしてみましょう。ひとり1枚のハンカチを染めます。

日 時 7月26日(土)午前9時~正午

会 場 歴史の里 展示休憩棟

定 員 親子先着10組(20名)

対 象 小学生以上の親子

参加料 1,000円(材料費等)

講 師 歴史の里 里染めの会

申込み 電話で歴史の里まで

### 高機で親子・裂き織り体験

昔ながらのはた織り機で、「裂き織り」を体験してみましょう。

日 時 7月29日(火)、8月30日(土)

午前10時~正午、午後1時~午後3時

会 場 歴史の里 木下尚江生家

定 員 午前、午後とも各5組

参加料 1,000円(材料費等)

講 師 川上裕子氏

対 象 小学生以上の親子

申込み 電話で歴史の里まで

### 親子みすず細工体験

地元のスズタケを使ってみすず細工を体験してみましょう。

日 時 7月30日(水)午後1時~午後3時

会 場 歴史の里 展示休憩棟

定 員 親子5組

対 象 小学生以上の親子

参加料 1,500円(材料費等)

講師 松本みすず細工復活プロジェクト

申込み 電話で歴史の里まで

### 時計博物館から

☎0263-36-0969

### 夏休み子ども時計づくり講座

子どもたちを対象とした時計の歴史としくみを理解するための講座で、初期の機械式時計である重錘式機械時計を製作することで、子どもたちの時計や時間への興味を高めてもらうものです。

日 時 8月6日(水)・7日(木)午後2時~午後3時

会 場 松本市時計博物館 3階企画展示室

定 員 各7名

対 象 一般

参加料 1,500円(材料費込)

申込み 7月23日(水)から受付開始 電話にて時計博物館まで

### 旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

### 第130回サロンあがたの森「出会い、そして感謝」

「長野県とそこに住む人々との縁に恵まれた感動を胸に、将来日中友好交流に貢献したい」という李さん。8月の帰国を前に、中国と日本、専攻の民俗学を語っていただきます。

日 時 7月19日(土)午後1時30分~午後4時

会 場 あがたの森文化会館

参加料 無料

講 師 李常清氏

(中国山東大学大学院·信州大学交換留学生·民俗学)

問合せ 旧制高等学校記念館まで

### あとがき –

天神様400年の特別展が本館で始まりました。学問の神様として人々から崇敬され、 親しまれてきた天神様に、博物館の展示を通してふれてみるのもよいでしょう。夏季には 「戦争と平和」展、「まつもとの七夕2014」など、まる博連携事業も目白押しです。是非 とも、皆さん博物館へお出かけください。楽しい催しがお待ちしています。 (H.O)

### あなたと博物館 No.193

発行年月日/平成26年7月1日 編集·発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.come-mail:mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社